

包括連携協定 日本郵便株式会社

包括連携に関する協定締結式



市と日本郵便株式会社の包括連携協定の締結式は9月28日、市役所で行われ、関係者25人が出席しました。

同協定は、同社の社員が市内で業務を行う際に、子どもや高齢者などの何らかの異変に気付いた場合に市に情報提供を行うことなどを定めたものです。

式で立谷市長は「市民が安全で、便利で、快適に暮らせる市をつくるため、連携を深めていきたい」と協定への期待を述べ、古屋正昭日本郵便株式会社東北支社長は「郵便局の地域のインフラとしての役割を果たしていきたい」と述べました。

秋空の下で熱戦 ソフトテニス大会

相馬市長杯ソフトテニス大会は9月19日、角田公園テニ



スコートで開かれ、相双地区の中学生ペア104組が熱戦を繰り広げました。

ソフトテニスの競技力向上とジュニア選手の健全育成を図ることを目的に、市ソフトテニス協会の主催。

大会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に留意した上で、男女別のトーナメント形式で行われ、参加者たちは秋空の下、最後まで諦めずにボールを打ち合い、さわやかな汗を流していました。

市町村対抗福島県軟式野球大会

第14回市町村対抗福島県軟式野球大会において相馬市チームは9月19日、ほばら大泉球場（伊達市）で天栄村チームと対戦しました。

相馬市チームは2回に7番

の鈴木竜二選手のセンター前ヒット、8番星和樹選手の左中間への2塁打で2点先制。しかし3回に2失点で追いつかれ、さらに5回、7回と追加点をあげられ、2対5で敗退しました。

来年は相馬市チームが良い

相馬市チーム惜敗

成績が残せるよう、皆さんの応援をお願いします。



健康増進に汗を流す 12時間ソフトボール大会

NPO法人オール相馬軍ソフトボール倶楽部主催の12時間ソフトボール大会は10月4日、相馬光陽ソフトボール場で開催されました。同大会は、新型コロナウイルス



イルス感染症の感染拡大防止のため規模を縮小して開催され、ADEKA相馬工場、公立相馬総合病院、相馬シニアなど9チームが参加。

先攻の桜チームと後攻の馬陵チームの2つに分かれ、7時から熱戦を繰り広げました。

参加者は、秋空の下、元気にプレーし、点の取り合いの白熱した好プレーが数多く行われました。

試合は25回まで進み、28点対43点で馬陵チームが勝利しました。



自然と歴史を感じて歩く みちのく潮風トレイル



第10回みちのく潮風トレイルは9月26日、原釜尾浜海水浴場駐車場をスタート地点に開催され、県内外から参加した58人がウォーキングを楽しみました。

市観光協会の主催。

参加者は、7月にオープンした尾浜ビーチバレーボール場や原釜尾浜防災緑地などの市沿岸部を巡る13・6キロメートルを歩きました。

当日は相馬の潮風や豊かな自然を感じつつ、参加者同士、感染防止に配慮しつつコースを巡りました。

また、休憩地点である相馬光陽ソフトボール場バーベ

キュー広場で今年度相馬ブランドに認証された相馬せんべいと柚子砂糖漬（船橋屋製菓）が振る舞われ、参加者は笑顔でお菓子を味わっていました。



高校生などが熱戦 金沢興業 Cup ビーチバレー大会



第1回金沢興業 Cup キング&クイーンは10月4日、尾浜ビーチバレーボール場で開催されました。

出場者は、相双ビーチバレー協会の推薦を受けた相双地方の高校生など、男女合わせて24チーム48人。

大会は相双ビーチバレーボール連盟の主催で、ビーチバレーボールの振興などを目的に開催。

試合は男女ともキング戦形式で行われ、選手らはお互いに声を掛け合いながら、熱戦を繰り広げました。

スポーツ大会出場報告

バドミントン 大宮蒼空選手・大宮冬真選手

スポーツ大会出場報告は10月7日、市役所で行われ、選手らが福地憲司教育長に東北大会出場を報告しました。

訪れたのは、8月29日に猪苗代町で開催された第26回福島県小学生バドミントン選手権大会で優勝し、10月10日に岩手県で開催された第26回東北小学生バドミントン大会に出場した大宮蒼空選手（桜丘小5年）と大宮冬真選手（桜丘小4年）。

蒼空選手と冬真選手はそれぞれ大会への決意を述べ、報告



告を受けた福地教育長が激励の言葉とともに奨励金を手渡しました。

軟式野球 中村一中野球部

スポーツ大会出場報告は10月14日、市役所で行われ、中

村第一中学校野球部の選手14人が福地憲司教育長に東北大会出場を報告しました。

同校野球部は、9月12日、13日に伊達市で開催された第18回東北少年軟式野球新人戦大会福島県大会で優勝し、10月17日に福島市で開催された第18回東北少年軟式野球新人大会に出場しました。

報告を受けた福地教育長は選手たちを激励し、奨励金を手渡しました。



木製ベンチの寄贈 相馬地方森林組合・農林中央金庫



相馬地方森林組合と農林中央金庫による木製ベンチの寄贈は9月30日、市役所で行われ、八巻一昭相馬地方森林組合代表理事組合長と望月大輔農林中央金庫福島支店支店長らが訪れ、立谷市長に目録を手渡しました。

同寄贈は、地域社会貢献を目的に、森林組合と農林中央金庫が共同で地域材を活用した木製品の寄贈に取り組むもので、東日本大震災以降継続して行われています。

目録を受け取った立谷市長は「寄贈ありがとうございます。大切にに使わせていただきます」と感謝の言葉を述べました。

寄贈いただいた木製ベンチ12基は、尾浜こども公園内に設置されました。



市女性消防隊の啓発チラシによる広報活動は9月23日、市役所で行われ、関係者ら9人が参加しました。

同隊は例年実施している広報活動が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために実施できないことから、代替えとして防災の啓発チラシを作成し、全戸に配布するもの。

当日は、渡部順子同隊隊長が「市民の皆さんの防災意識

向上を図るため、広報活動に協力ください」と述べ、渡邊孝喜市区長会会長にチラシを手渡しました。

チラシは、火災を防ぐポイントや消火器の使い方、防災グッズ持ち出し用品のチェックリストなどが記載されており、行政区長を通して、広報そうま10月1日号に合わせて配布されました。

啓発チラシで防災を呼び掛け

市女性消防隊

防災力の強化

県内初災害対策車配備

相馬消防署に10月7日、津波・大規模風水害対策車が県内で初めて配備されました。

各種災害に対処できる装備を備えた同車は、令和5年度までに総務省消防庁が各県1台ずつ貸与しており、県内では相馬消防署に配備されました。

また、同車の配備に伴い、相馬、いわき、会津、双葉の各消防本部で編成される土砂・風水害機動支援部隊内の救助小隊が結成され、全国で発生する大規模災害に対応することになります。

相馬消防署に配備された同



瀬川隆志同署消防司令長は「同車が配備されたことにより、相馬消防署管内だけでなく、全国で大規模な災害が発生した際に出動することとなります。今後訓練を十分に行い、安全に救出活動を行えるよう備えたい」と述べました。

車の全長は約9・2メートル、全幅は約2・5メートル、高さは約3・7メートルの四輪駆動で、装備品として船外機を取り付けることによって水中でも使用できる水陸両用車のほか、20人乗りの高機能救命ボートなどを搭載しています。